

平成31年 2月

# 寶意翔太郎 学位論文審査要旨

主 査	武 中	篤
副主査	山 本	一 博
同	磯 本	一

## 主論文

Predictive value of cortical thickness measured by ultrasonography for renal impairment: a longitudinal study in chronic kidney disease

(腎機能障害の超音波検査で測定した腎皮質径の予測値：慢性腎臓病の縦断的研究)

(著者：寶意翔太郎、高田知朗、杉原誉明、伊田絢美、小川将也、前ゆかり、福田佐登子、宗村千潮、磯本一)

平成30年 Journal of Clinical Medicine DOI:10.3390/jcm7120527

## 参考論文

### 1. CT colonographyを用いた大腸憩室症の疫学的検討

(著者：浜本哲郎、大谷正史、松本栄二、堀立明、鶴原一郎、中村希代志、寶意翔太郎、岩本拓、磯本一)

平成30年 日本消化器病学会雑誌 115巻 633頁～642頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究はベースラインで腹部超音波検査による腎の形態学的評価に加えて血清クレアチニン値とeGFRの経時的な評価を行い、ベースラインの腎の超音波検査所見と2年後のeGFR低下率との関連を検討したものである。その結果、身長で補正した腎皮質径と2年後のeGFRの低下率との間に有意な相関関係がみられた。また、身長で補正した腎皮質径が2年後のeGFR低下率の最も強い予測因子であることが示された。2年間で30%以上のeGFRの低下および透析導入をエンドポイントとしたところ、身長で補正した腎皮質径が感度72.5%、特異度80.0%の予測能を有することが判明した。本論文の内容は、腎不全の進行予測の新しい方法として、腹部超音波検査による腎皮質径の測定が有用であることを示唆するものであり、慢性腎臓病の診療において、明らかに学術水準を高めたものと認める。